

北の スポボラ

スポーツをする楽しみ
見る楽しみ
支える楽しみ

発行 / 認定NPO法人 ランナーズサポート北海道

コートでの熱いプレーを後押し レバンガ北海道ボランティア



きたえーるのアリーナでコロナ感染予防のプラカードをもって座席案内をするレバンガボランティア

プロバスケットボールB1リーグの「レバンガ北海道」が2022-23シーズンを戦っています。10月1日の開幕から2023年5月まで24チームが東地区、中地区、西地区に分かれ全国各地で60試合をこなす長丁場。レバンガは東地区に所属し、ホーム30試合のうち28試合を北海きたえーる（札幌市豊平区）で行いますが、そこではレバンガ北海道のボランティアスタッフの存在が欠かせません。

ボランティアが着用するビブスの背中ついた大きな「6」の文字。1チーム5人の選手がコート上で激しくぶつかりあうバスケットボールで、シックスマンと呼ばれる6番目のプレイヤーはスターティングメンバーと同様か、それに次ぐ重要な存在。ビブスにつけられた背番号6は、チームが誕生した2011-12シーズンからホームゲームを支えてきたボランティアへの、レバンガからの最大の敬意が込められています。

札幌で遅い初積雪となった11月30日には千葉ジェッツ戦が行われ、強豪で人気チームとの対戦とあって、会場アリー

ナでは客席を埋める多くの観客が詰めかけました。

参加したボランティア15人は、前日の設営や、当日・試合開始前のプログラムへのチラシ折込、会場内での観客の席への誘導などで、Bリーグファンの興奮を盛り上げました。（2面へ続く）

目次

- 健康の雑学 加齢性難聴 ②
- 3年ぶりに北海道マラソン ③
- 大会ホームページにボランティアページ ③
- スマイル・サポーターズ活動再開 ④
- JVSCが日本ボランティアセンターに統合 ④